

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。みなさん、年末年始をどのように過ごしましたか。受験を控えている3年生にとっては、クリスマスも正月も関係なかったという感じでしょうか。3年生は、卒業までの高校生活も残すところあと50日ばかりとなりました。2学期終業式でもお話ししましたが、有終の美を飾ることができるように残された高校生活をきちんと送ってください。2年生、1年生のみなさんは、それぞれ3年生0学期、2年生0学期がスタートしました。いつまでも正月気分のままでは困ります。気持ちを切り替え、学年の総まとめをするとともに、うまく新年度へつなげてください。

さて、「正月」の「正」（ただしい）という漢字の部首は何でしょうか。漢和辞典で探そうと思うと「止」（とめる・とめへん）の部で出てきます。つまり「正」とは、「一に止まる」ということです。では「一」とは何か。「一」とは、物事の最初、原点、出発点ということです。自分自身が原点に立ち止まること、自分自身が原点に立ち帰ること、自分自身を見つめ直すこと、これが「正」です。原点に立ち帰り、自分自身を厳しく見つめ直すことで、おのずと正しい考え、正しい行いにたどりつくのです。1年のスタートにあたり、今一度、自分自身を見つめ直し、原点に立ち帰り、気持ちも新たにこの1年を過ごしていきましょう。

「初心忘るべからず」。これは、室町時代に父観阿弥とともに能楽を大成した世阿弥の有名な言葉です。この言葉は、「何事においても、始めた頃の謙虚で真剣な気持ちを持ち続けていかねばならない」という意味で使われるのが一般的です。しかし、芸術論としての世阿弥のこの言葉は、もっと奥深く、繊細な意味を持っていると言われます。興味がある人は調べてみてください。実は、この言葉の後には「時々の初心忘るべからず。老後の初心忘るべからず。」と続きます。みなさんにとっての「初心」とは、江津高校に入学した時の最初の思いや決意を指すのかもしれませんが、「時々の初心」とは、例えば、新学期のスタート、テストの前、部活動の大会の前など、その「時々の初心」があると思います。その時々の新たな思いや決意を忘れないことが大切ということです。令和5年のスタートにあたってのみなさんの「初心」は何でしょうか。さきほども言いましたが、自分自身を見つめ直し、原点に立ち帰り、今一度「初心」を確認してみましょう。そして、「老後の初心」とあるように、「初心」は一生続いていき、もうこれでいいとか、完成したとかということではなく、常に向上心を忘れるなということです。

今年1年が、みなさんにとって充実した素晴らしい1年になりますように。